

# 5 暮らしのうつりかわり

## 1. むかしの暮らしをつたえる道具

海老沢さんの家と宮野さんの家をたずねて、むかし使っていた道具を見せていただきました。



火ばち



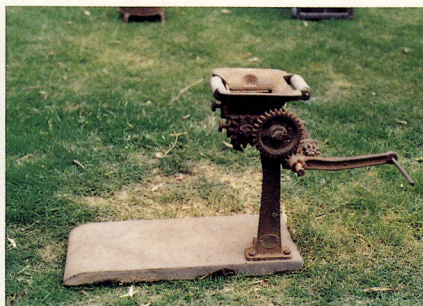
鉄びん



こて



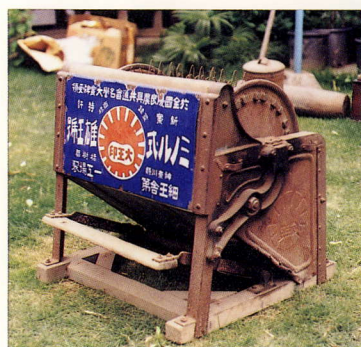
石うす



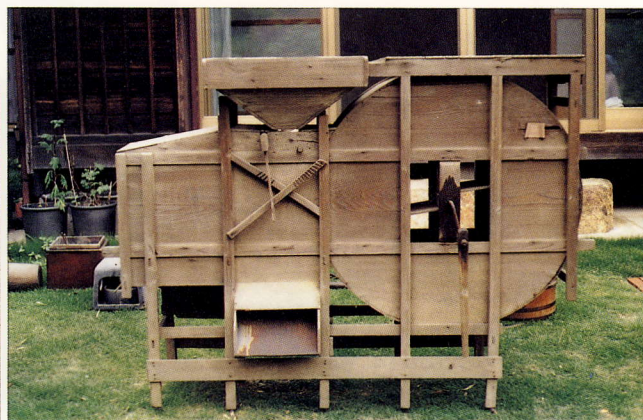
製めん機



茶がめ



足踏み脱こく機



とうみ

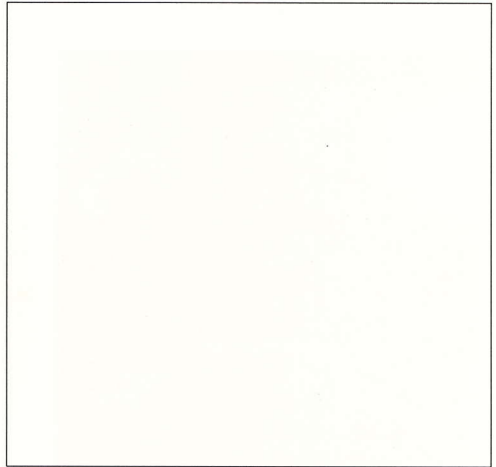
このような道具が使われていたころの暮らしのようすをおじいさんやおばあさんにきいてみましょう。



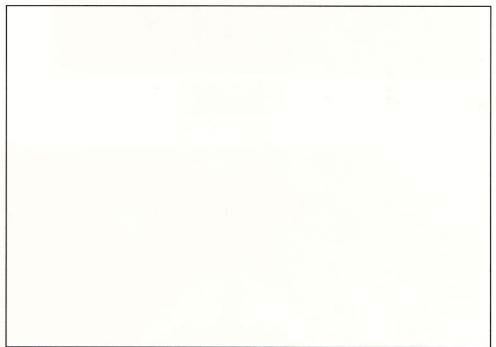
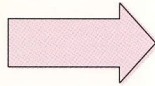
今はどんな道具になっているのでしょうか。



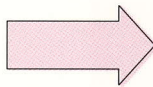
おひつとおひつ入れ



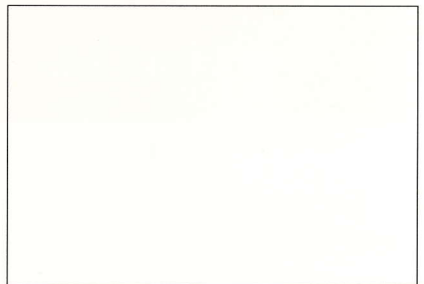
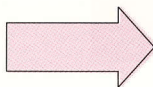
ランプ



火のし  
中に炭すみを入れて布の  
しわをのばす道具



さおばかり



## 2. まちのむかしを見つけよう

どこに なにがあるのでしょうか。



① ばとうかんのん  
馬頭観音



③ ころしんとう  
庚申塔 (他3基)



④ セイの神



② かきもりいなり  
瘡守福荷

おできの神さまとされています。  
おできができると土で団子だんごを作って供え、  
なおるとお礼に米の団子を供えたそうです。



⑤ いたひ  
板碑

(梶千秋氏所蔵、くわしい説明は67P)



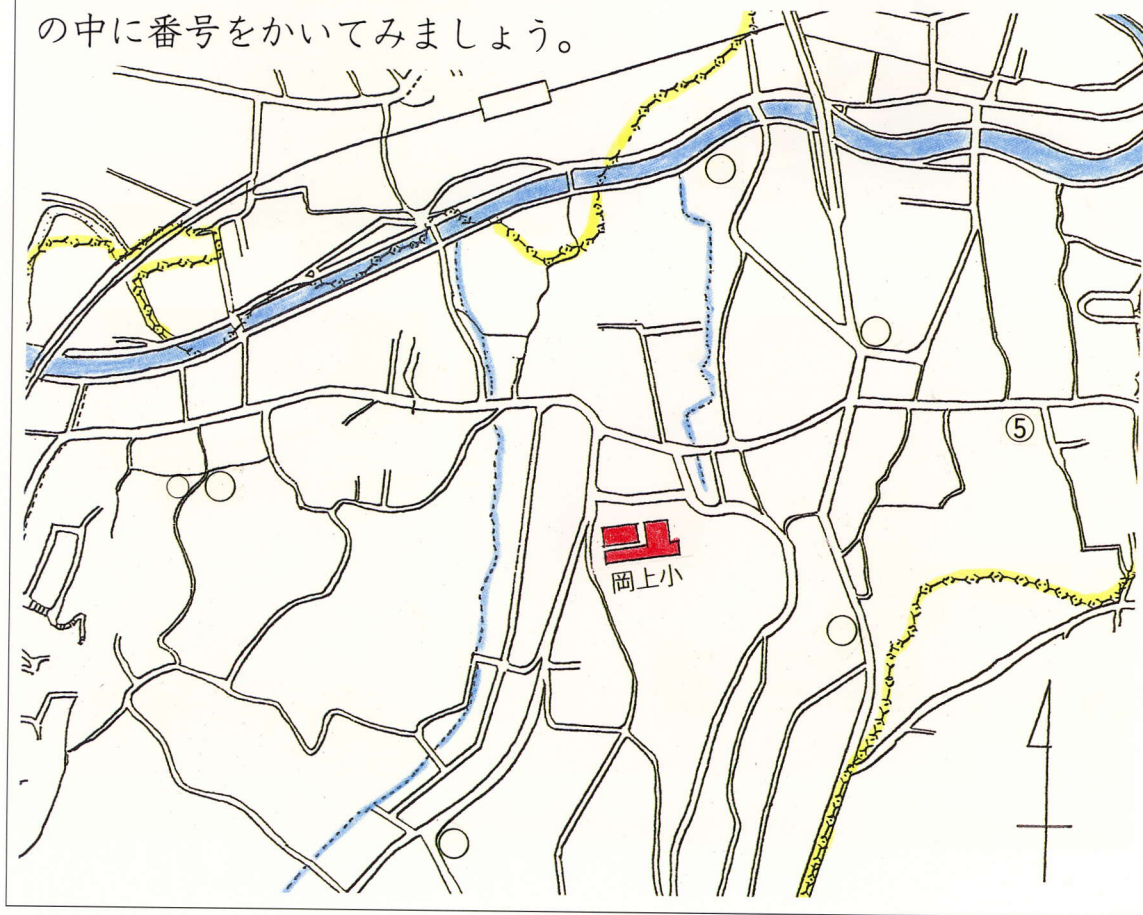
⑥ 地蔵



⑦ 金勢大明神碑

むかしたんけんマップ

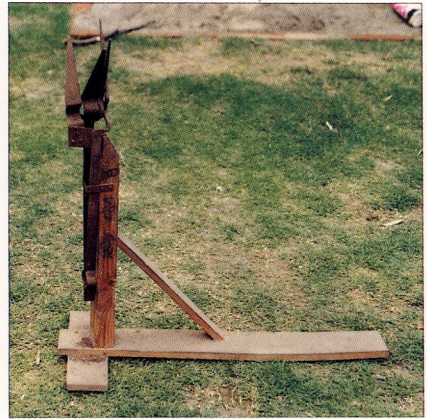
写真と同じものがあるところはどこでしょう。見つけたら、○  
の中に番号をかいてみましょう。



### 3. 養蚕がさかんだったころ

昭和の初めごろまで、岡上では、ほとんどの家で養蚕（蚕を育てて、まゆをとる仕事）がおこなわれていました。

岡上の畑の大部分が、かいこのエサのための桑畑になっていたことがあるそうです。

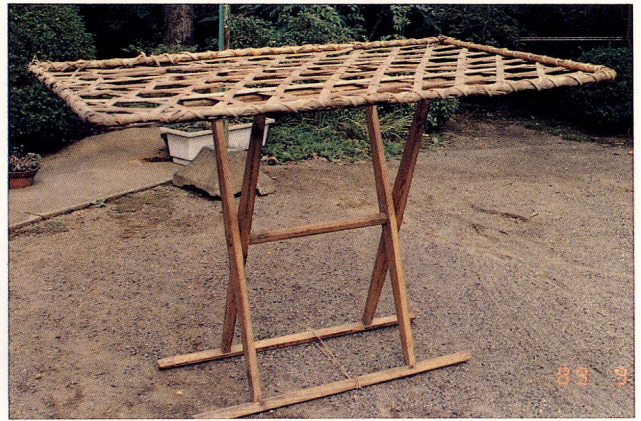


桑の葉こき機

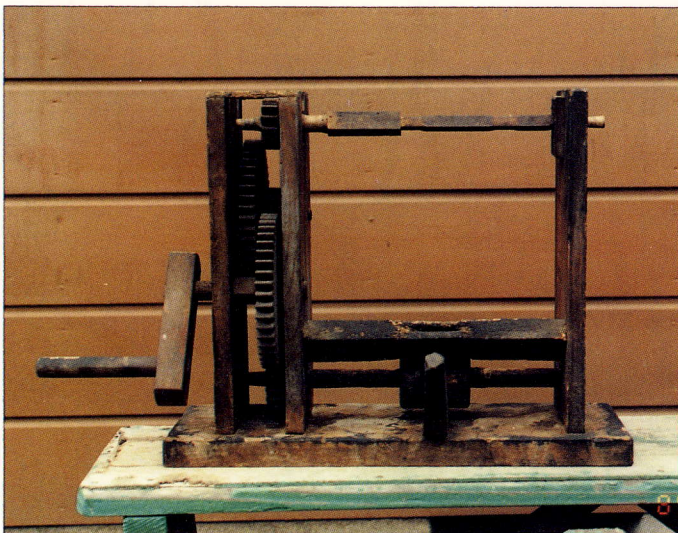
#### 養蚕や糸取りに使った道具



糸わく



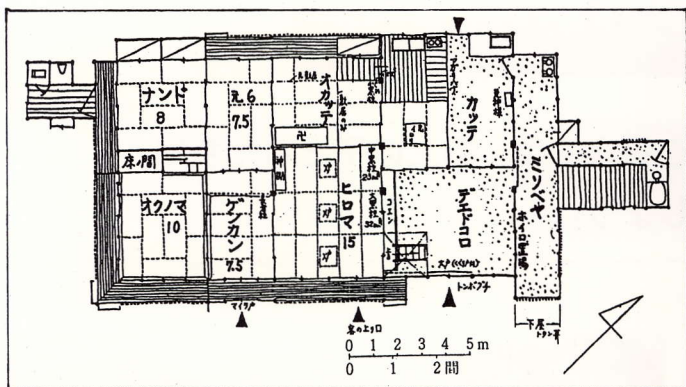
えびら



ざぐり



だんろ  
暖炉



養蚕をしていた家の見取り図

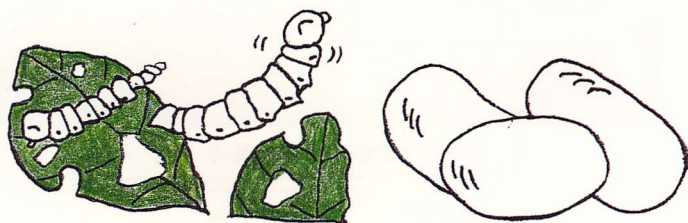
ヒロマにかいこの暖ぼうのための<sup>る</sup>炉があります。

「かわさきのむかし話」という本には「ようさんのはじめ」というお話が、岡上の民話としてとり上げられています。



こかげさんしどう <sup>みやま</sup> 蚕影山祠堂の宮殿

蚕影山とはかいこの神さまのことで、東光院の境内にあったものですが、今は、日本民家園に移されています。



### ようさん 養蚕をしていたおばあさんのお話

養蚕の仕事は、春・夏・秋と1年に3回ありました。

春にはまだ寒い日があり、かいこの育ちがわるくなったこともあったので、かいこを育てる部屋には目ばりをして、炉に炭をおこして暖ぼうしました。朝3時から4時の間には起きて、暖ぼうを始めなければなりません。かいこがまだ小さい時には、桑の葉の先のやわらかいところだけを選んできざんであげました。

できたまゆは、公会堂にあったかんそう機でかんそうさせてから糸取りをしました。それをより屋さんでよってもらってから出荷しました。そのころは、三輪に糸買いがいて、岡上に買い取りにきていました。